

試験結果報告書

依頼者名 株式会社 洗 殿
品名 液剤 洗 20240311 1点
試験項目 抗菌性試験

2024年3月22日提出の試料に対する試験結果は下記の通りです。

2024年5月8日

一般財団法人 日本繊維製品品質技術センター
神戸試験センター 森



記

○試験内容

液剤の抗菌性を評価する（依頼者指定法）

○試験概要

- 日本薬局方 参考情報：消毒法及び除染法 2.2.1.試験菌懸濁法 準用
- 試験菌種：黄色ぶどう球菌 *Staphylococcus aureus* NBRC 12732
大腸菌 *Escherichia coli* NBRC3972
メチシリン耐性黄色ぶどう球菌
Methicillin resistant Staphylococcus aureus IID1677
- 放置温度：25℃
- 放置時間：2時間、6時間、24時間
- 薬剤不活性化剤：SCDLP 培地

○試験方法

1) 本試験：

- 保存菌をソイビーン・カゼイン・ダイジェストカンテン培地に1白金耳移植し、35℃で1日間培養する。
- 1日間培養したソイビーン・カゼイン・ダイジェストカンテン培地からコロニーをかき取り、試験菌液濃度が $10^7 \sim 10^8$ CFU/mLになるように生理食塩水に懸濁したものを試験菌液とする。
- 試験サンプル 9.0mL に試験菌液 1.0mL を加え、25℃で所定時間放置する（静置）。これを、試験菌懸濁液とする。
- 放置後の試験菌懸濁液 1.0mL を薬剤不活性化剤 9.0mL に加え、薬剤の反応を停止させる。これを、反応停止液とする。
4. の反応停止液から 1.0mL を採り、希釈系列を作成し、ソイビーン・カゼイン・ダイジェストカンテン培地と混和する。
- 培地が固化した後、35℃で24時間培養し、コロニー数を数え、生菌数を測定し、試験菌懸濁液 1.0mL あたりの生菌数を算出する。

- * この報告書は、提出の試料に対する試験結果であり、ロット全体の品質を保証するものではありません。
- * 本報告書の全部又は一部の無断転用を固くお断りします。



2) 不活性化剤の有効性確認試験：

1. 試験サンプル 1.0 mL を薬剤不活性化剤 9.0 mL に加え、混合する。
2. 上記の混合液 5.0 mL を滅菌済試験管に採る。
3. 試験菌液を $10^3 \sim 10^4$ CFU/mL に調製し、その懸濁液 0.05 mL を 2. の混合液に加える。
4. 25℃で1時間静置する。
5. 本試験と同様に生菌数を測定し、不活性化剤の有効性を確認する。

○試験結果

1) 本試験

黄色ぶどう球菌 *Staphylococcus aureus* NBRC 12732

試験菌懸濁液： 1.2×10^8 CFU/mL

検 体		試験菌懸濁液 1.0mL あたりの 生菌数 (CFU/ml) の常用対数平均値
りん酸緩衝生理食塩水 (control) (注)	混合直後	7.01
	2時間放置後	7.03
	6時間放置後	7.00
	24時間放置後	6.73
液剤 洗 20240311	2時間放置後	6.66
	6時間放置後	5.18
	24時間放置後	< 1.00

大腸菌 *Escherichia coli* NBRC3972

試験菌懸濁液： 1.5×10^8 CFU/mL

検 体		試験菌懸濁液 1.0mL あたりの 生菌数 (CFU/ml) の常用対数平均値
りん酸緩衝生理食塩水 (control) (注)	混合直後	7.09
	2時間放置後	7.07
	6時間放置後	7.07
	24時間放置後	6.96
液剤 洗 20240311	2時間放置後	6.64
	6時間放置後	5.07
	24時間放置後	3.69

- * この報告書は、提出の試料に対する試験結果であり、ロット全体の品質を保証するものではありません。
- * 本報告書の全部又は一部の無断転用を固くお断りします。



メチシリン耐性黄色ぶどう球菌 *Methicillin resistant Staphylococcus aureus* IID1677
試験菌懸濁液： 1.1×10^8 CFU/mL

検 体		試験菌懸濁液 1.0mL あたりの 生菌数 (CFU/ml) の常用対数平均値
りん酸緩衝生理食塩水 (control) (注)	混合直後	6.98
	2 時間放置後	7.00
	6 時間放置後	6.98
	24 時間放置後	5.93
液剤 洗 20240311	2 時間放置後	6.98
	6 時間放置後	6.97
	24 時間放置後	6.78

(注) 対照試料としてりん酸緩衝生理食塩水を用いた。

2) 不活化剤の有効性確認試験

黄色ぶどう球菌 *Staphylococcus aureus* NBRC 12732
試験菌懸濁液： 1.1×10^4 CFU/mL

検 体	生菌数 常用対数平均値
りん酸緩衝生理食塩水 (control) (注)	2.03
液剤 洗 20240311	2.01

不活化剤の有効性確認試験結果より、いずれの検体においても試験液を SCDLP 培地で 10 倍希釈することにより検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを確認した。

大腸菌 *Escherichia coli* NBRC3972
試験菌懸濁液： 1.3×10^4 CFU/mL

検 体	生菌数 常用対数平均値
りん酸緩衝生理食塩水 (control) (注)	2.04
液剤 洗 20240311	2.03

不活化剤の有効性確認試験結果より、いずれの検体においても試験液を SCDLP 培地で 10 倍希釈することにより検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを確認した。

- * この報告書は、提出の試料に対する試験結果であり、ロット全体の品質を保証するものではありません。
- * 本報告書の全部又は一部の無断転用を固くお断りします。

メチシリン耐性黄色ぶどう球菌 *Methicillin resistant Staphylococcus aureus* IID1677
試験菌懸濁液： 9.1×10^3 CFU/mL

検 体	生菌数 常用対数平均値
りん酸緩衝生理食塩水 (control) (注)	1.95
液剤 洗 20240311	1.93

不活化剤の有効性確認試験結果より、いずれの検体においても試験液を SCDLP 培地で 10 倍希釈することにより検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを確認した。

以上

- * この報告書は、提出の試料に対する試験結果であり、ロット全体の品質を保証するものではありません。
- * 本報告書の全部又は一部の無断転用を固くお断りします。